

江工委会会報

発行所
江 工 会

島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話 (代) 0855-52-2120
郵便番号 〒 695-0011

「江津工業高校の役割」

会 長 土 井 正 人

(工業化学科 昭和三十九年卒業)



令和五年
皆様には新しい年の始まりと共にご健勝のこととお慶び申し上げます。今世界は激動の時を迎えているのでしよう！

コロナはすでに三年が経ち一向に衰えません。ウクライナの戦争で罪のない人々が多く亡くなり、天変地変何時何処で災害は起こるか計り知れません。そんな地球は秒速三〇キロメートル（江津から大田・浜田へ一秒で行く）の速さで太陽を廻っていますし、更には秒速五〇〇メートルで自転している宇宙船地球号です。人口は八〇億人を超えパンクしそうです。日本は少子高齢化が進み、人口もどんどん減っています。世界の中で十二番くらいとな

りました。

経済においてGDPは世界の五％で三位、五百兆円程ですが、国民一人当たりは五百万円程と二十七位と衰退しております。

江津市においても人口二万三千人を切り、高齢化は四十％超え老人ばかりの状況です。

毎年誕生する子供は百五十人前後と年々減少しています。母校は全校生徒百五十人を切っており、存続すら危ぶまれています。まず第一には定員の確保が必要です。

かつて卒業生の多くが地元を離れ、県外に出て行き日本の産業を支えてきましたが、今はそんな余力はありません。そこに母校の役割が大きく関わってくると思います。地方

こそが新しい挑戦ができる、そんな社会の動きも見えてきています。企業が良い人材を待つ姿勢から、自ら出向いてPRと人材の確保に動いております。

島根の産学官が連携して大学・高校生を応援する「チャレンジ基金」の構想も実現しており、これから社会を担う若者をいかに地域に定着させるか、産学官の取り組みに期待をしております。学校も地域に出向き企業や地域社会とのつながりも出来つつあり、学校の中だけにとどまらず幅広く門戸を広げております。江津工業団地には多くの企業が進出してきており、新たに造成がなされます。

これこそ母校の役割がそこにあります。将来の地域社会を担う人材育成の場なので

その学校の魅力をどう伝えるか、卒業生会もその一役を担えたらと強く思っています。卒業生の皆様のご支援ご協力を切に願うものです。

私事ながら孫二人が母校のお世話になり頑張ってくれています。どうなるか楽しみにしているところです。

それでは良き年となりますように！

江工委会員
の皆様には、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から母校の教育活動に格別のご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

「現況報告」

校長 小 嶺 和 隆



さて、平成三十年に告示された学習指導要領により、令和四年度入学生から学年進行で新しい学びが始まっています。一例として、現一年生全員がタブレット端末を購入し、ICT機器を活用した授業が積極的に行われています。同時に、社会に開かれた教育課程の重要性が示され、「地域」とともにある学校」として本校でも令和四年度から学校運営協議会を設置し、従前の江津市内三校による「GO▽G OTSU Uコンソーシアム」と合わせ、学校の特色化と魅力化に努めております。

現在、本校の地域との協働活動は、学校魅力化事業や各科の課題研究の活動を中心に

行っています。今年も「旧JR三江線から地域課題を考え

る・トロツコ電車（川戸地域コミュニティ協議会）」「マイクロ水力発電機の開発（第一稀元素化学工業(株) 広島工業大学）」「交通安全啓発モニメントの製作（江津警察署）」など多くの活動が報道メディア等で取り上げられました。進路状況は、就職者が約七割、進学者が約三割の割合で、進学者が微増しています。さらに就職者のうちの県内就職率は五十二％で、例年に比べ、大きく減少しました。本校のブランドデザインに掲げた、地元就職率の向上という目標に向け、今後さらに、指導の充実や地域との協働活動が必要だと考えています。

次に生徒募集の状況です。江津・浜田地域の県立高校の定員割れの状況は、依然として続いており、本校の在籍数も百四十名まで落ち込んでいます。様々な場面で、地域での少子化の波が日々大きくなっていることを痛感しています。本校が地域産業に必要とされ、持続可能な人材育成に貢献できるよう、今後とも魅力ある学校づくりを通して、本校への入学希望者の増加を目指して取り組む所存です。江工会の皆様には、母校への更なる温かいご支援をお願い

いするとともに、皆様方のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

「二〇二三年 続くコロナ過をいかに」

副会長 浜田支部 (建築科 昭和四十六年卒業) 岡 本 正 友



コロナは今なお日本に限らず全世界においても大きな禍をもたらしています。加えて隣国等のミサイル発射実験や尖閣諸島への領海侵犯、台湾への外圧など日本の安全保障が脅かされるなど、また昨年春の突然のロシアのウクライナ侵略による世界を巻



き込んだその禍は、経済不況を招き物価が上昇して、社会情勢は混とんとしています。地元をはじめ全国で活躍されている江津工業高校同窓生の皆様には様々な苦難にめげることなく、この新春を健やかに迎えられること衷心よりお慶び申し上げます。

振り返ると、昨年も江工本部はもとより各支部においてコロナの影響から活動が停滞しました

浜田支部では、コロナの影響から中止していた支部活動及び総会交流会について、二〇二二年こそ是非に実施して欲しいとの要請が多くあることから、昨年夏の七月末の予定を二度延期したのちに十月二十九日行いました。本部より学校長及び同窓生の事務局にも出席いただき、



の鈴蘭別館において、若い参加者を加えた三十一名の会員が参集し盛大に開催したところです。総会では二年後に控えた江津工業高校創立九十年記念式典事業計画の報告と協力要請を行いました。



久々の懇親会は感染対策を図りながら会員から提供いただいた景品を前にゲームをしながら、和やかに楽しい時間を過ごし感染者を出すことなく無事終えることができました。

最後に同窓生の皆様には、栄光ある母校の為の支援を江津の地より心よりお願いいたします。二〇二三年は続くコロナに挫けることなく健康に気をつけて、経済不況にも不撓不屈の精神で立ち向かって頂きたくせつに願っています。

「江工回顧録」

副会長 福 田 稔 (工業化学科 昭和五十三年卒業)



新型コロナウイルスは新たな変異を繰り返し、未だ収束の兆しが見られませんが、江工のみなさまにおかれましては、コロナに負けず健やかに新年をお迎えのことと存じます。

さて、我が母校も来令和六年に創立九十周年を迎えることとなりました。人間に置き換えると「卒寿」です。何としてもこの創立祭を立派に

迎えたいと思います。ところで、私は日々の生活の中で時々高校生活のことを思い出すことがあります。

昭和五十三年に工業化学科を卒業できたのですが、在学中はいろいろな方に多大なご迷惑をおかけしました。現会長の土井正人先生、佐々木一郎先生、佐々木敏博先生をはじめ同級生の皆さん、その節は本当にありがとうございました。私も還暦を過ぎ、三人の孫のおじいちゃんとなり日々充実した生活を送っております。

校訓である「質実剛健」「不撓不屈」という言葉が、人生の糧となったといえれば少し大げさかもしれませんが、これまでの人生の中で幾度となく励まされたことも事実です。私にとつてのパワーフレーズです。「なにくそ負けてなるものか」の精神で、今後もやっていきたいと思えます。結びに、江工会会員の皆さまのさらなるご活躍とご健勝をお祈りいたします。

二〇二三年もコロナに負けず頑張りましょう！

江工会支部だより

関東支部

母校創立九十周年記念事業と江工会活動について

副支部長 勝田友治

(電気科 昭和三十八年卒業)



明けましておめでとうございます。令和五年の新年を江工会会員・ご家族の皆様が新型コロナウイルスの影響も受けずにお元気で迎えられたことと思います。昨年同様、今年も宜しく願います。

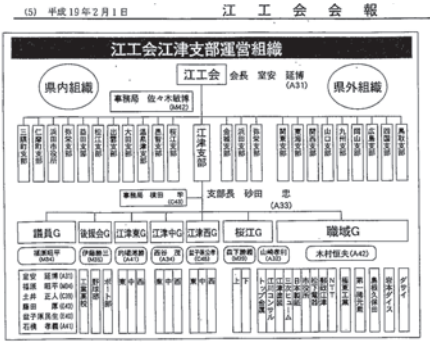
来年、令和六年度は母校・島根県立江津工業高等学校の創立九十周年記念の年です。母校の開催行事を基に江工会本部としての行事を計画・立案されると思いますので各支部と共に関東支部も積極的な協力をして行きたいと思っています。

母校の創立七十周年記念事業で、江工会として、①会員名簿の発行、②記念誌の発行、③記念講演(関西支部、A二十九卒・藤井浩様)等が行われました。

創立八十周年記念事業では、①会員名簿の発行、②記念講演(関東支部、A47卒・西村和也様)、③江工会出席者と生徒との意見交換会等が行われました。

創立九十周年記念事業でも、今までの事業を継承されることと思っています。

七十周年・八十周年の時代と大きく変わっているのが、生徒数の減少と同時に江津工業高校OBの先生方も少なくなっています。解決策として江工会本部会長・役員皆様が母校と九十周年行事について協議され、各支部へ協議結果・今後の予定等の指示を頂ければそれに従って活動が出来ると思っています。



その為にも、地元、江津市在住の江工会会員組織(江津・市役所・日本製紙各支部で会員数が約二五〇〇人)を一日も早く再構築され、母校創立九十周年には地元三支部を中心に、更に県内各支部の強力な指導・推進をされるようにお願い致します。

*参考資料：江工会会報41号、平成一九年二月一日発行(5)全国の支部を含めた組織表です。

現在、母校の全生徒数が約一四〇名です。(最盛期には約一〇五〇人)近年は卒業生の地元就職率が約六〇%、県外就職率が約二〇%、進学率が約二〇%との事。石見地方の産業人材育成の為に必要な母校です。数年前に江津工業高等学校後援会が出来、地元多くの企業様が母校の後援をされています。石見地方の経済活性化の推進・人口減少化を無くす為にも必要な母校です。他方、島根県教育委員会の高校再編成計画で、母校は学校・学級再編成の議論の対象になり、母校存続の危機すら見え隠れしている昨今だと思われまます。その対策として地元江津支部の見直しをされ、母校創立九十周年前に活性化され、母校存続の活動を

強化されますようお願い致します。

関東支部として、新会員(関東地区への就職・進学者)が大変少なくなっています。

会員の方で関東地区へ勤務先の移動等された方をご存じでしたら、ご紹介下さい。お待ちしております。

連絡先：副支部長・勝田友治 Mail:katsutatomoharu@yahoo.co.jp

関東支部の「HP」江工会「関東支部」で最新情報を記載しています。

関西支部

関西支部・現況報告

支部長 橋本克己

(建築科 昭和四十二年卒業)



明けましておめでとうございます。

方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

しかしながら、コロナ過になって三年になりますか、なかなか今までのような、一家団欒で、お正月を過ごすのが、難しくなってきたのが、現状でしょうか。

昨年国内では、政治、経済、社会において暗い出来事があり過ぎました。

明るいニュースとしては、何ととっても、サッカーの、ワールドカップでしょうね。

そうした中、コロナ禍の影響で、記念総会を含めて、三年間総会が、開催できておりません。会員の皆様方とお目

にかかることなく、昨年は、多くの会員の方々がお亡くなりになっております。江工会関西支部も、高齢化が進んでおり参加される方々も、年々

少なくなってきました。

各支部も、同じで、規模も縮小され総会というより、懇親会的な様相になっているようです。

学校の存続の問題もそうですが、江工会の存続にも関わってきています。学校と、各支部と力を合わせて、もつともつと、若い方々を勧誘して、会員になって頂けないと、

江工会の存続も危ぶまれます。関西支部は、今年度には、新体制に変わります。そして今年こそは、六十四、六十七回大会の総会を、記念大会として行う予定にしております。

会員の皆様方に置かれましては、各々お誘い頂き、ご出席いただけたらと思います。

又、総会が出来ない事もあり、ゴルフ同好会として三月、七月、十月と年三回開催しております。どうぞ、お誘いの上、事務局までお問い合わせいただき参加の程、宜しくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、学校の繁栄と存続、そして江工会の繁栄、並びに会員の皆様方のご健勝ご多幸を御祈念申し上げますとともに、今年一年が皆様方にとりまして良い年に成ります様に、御祈念申し上げます。



山口県支部

「江工会の発展を祈願」

支部長 大屋 節 雄

(工業化学科 昭和三十八年卒業)



皆様、明けましてお目出度うございませす。

令和二年度から続いております新型コロナウイルスが、特に今年はおミクロン株が流行し、私の知り合いでも秋口になりまますと一家が感染したとの情報

もチラホラあり、大変な年でした。

江工会山口県支部総会を開催しようと思っておりますと感染が拡大し、関係者を集めての事前の相談等もできない状態です。

令和五年度になると、落ちていくのではないかと、期待しているのですが、ここはじつと我慢の時期と忍の一字で頑張っているところです。明るいニュースはありませんが、何よりも皆さん、健康で気持ちに減入る事なく前を向いて進みましょう。

最後に江工会本部の益々のご発展、並びに江工会関係者のご健康とご多幸を祈願して筆をおきます。

益田支部

新年に思う事

支部長 安 田 徳 太

(建築科 四十一年卒業)



前江工会益田支部長堀氏の突然の死亡後、四年間開

催されていない支部会合を開くべく、支部名簿を基に九十一名の会員に開催の葉書を出すも、出席七名、欠席四十四名、返信無し四十二名

という散々な結果になり、改めて会の運営継続の難しさを味わいました。

出席した七名で改めて支部としての活動を少しでも学校の存続、及び要望に添えていこうと役員一同思った次第であります。

学校が開校九十周年を迎えようとしていることは、私達卒業生にとりましては本当に誇らしいことでありますと共に、各界でご活躍されている方々を思います時、卒業生としての誇りとプライドを感じます。

私自身建築科を卒業し、建設業を営み四十周年を迎えました。三十五歳で独立開業し、設立当時の事を思う時、わずか三人で始めた事業が広島、東京に事務所を持ち、社員六十二名になりました。今日まで私を支えてくださった皆様に感謝の思いでいっぱいでありますし、本当に人々との出会いに繋がりに自分ではここまでできたのが不思議な感じがします。残された自分の人生を考える時、今さらながらに自分のできる事を一杯、悔いを残すことのないように社会の為、周りの人の為にできる限りの力で生きて行かなくてはとつくづく思う

今日この頃であります。

コロナという世界的にも虚しい病氣と共に、ロシア、ウクライナという戦争を始め、今まで私達が経験した事のない事柄や地球の温暖化まで起きています。人類が自然を大切にしなければならず、富みや便利さを求めてきた事のツ

「第十一回まめなか会(電気科三期生)」開催報告

昭和三十八年三月、電気科を卒業した同級生の会合です。(電気科三期生)

令和四年六月三十日・七月一日の両日、浜田市の「きんたの里」で開催しました。参加者は八名(鳥根県二名、関西二名、関東二名)でした。

今回は傘寿(八十歳、令和七年)の年に鳥根県内で開催することで決定しました。元気な姿で逢えるのを楽しみにしています。現在の会員は四十名です。

六月三十日、「きんたの里」で夕食前に故人になられた「大屋勝様と高野律男様」のご冥福をお祈りしました。その後、夕食を取りながら江工時代に戻り昔話に花が咲き、時間があつという間に終わりました。

ケがここに来て私達に襲い掛かって来ています。速く人類が元のすばらしい自然を愛し、守っていく事を望んでやみません。

令和五年度が皆様にとりまして平和ですばらしい年になりますように、心からお祈り致します。

七月一日、帰宅される方と母校訪問・アクアス見学の2班に別れました。

母校では、小嶺校長と楯野教頭の両先生に校内の案内をして頂きました。隔世の感を感じながら校舎・各教室の説明を聞きました。我々の頃は全校生徒が約七五〇名でしたが、現在は一四〇名位だそうです。石見地方の人口減と同時に閑散とした母校に驚きました。



◆ 事務局だより ◆

令和四年
一月～十二月

◆ 会報五十六号発行

二月二十四日(木)

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現教職員、在校生、同窓会等に配布。

◆ 新卒者入会式

二月二十八日(月)

江工会入会式(令和三年卒業生四十八名)
土井正人(昭和三十九年工業化学卒) 江工会会長より式辞をいただきました。

◆ 江工会理事會・總會 中止

新型コロナウイルス感染拡大防止のため懇親会を中止し、江工会館にて理事會・總會を行いました。令和三年度事業・決算報告、会則の改定、役員改選、四年度事業・予算審議を行い、開校九十周年に向けて会員名簿の発行を行うことが確認され、名簿作成業者との契約を進めることが決定しました。ただし、会則については更に検討を行うこととしました。

◆ 関東支部・関西支部より

支援金を頂戴しました。
◆ 関東支部 中止
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、

令和三年度活動・会計結果を書面にて送付し、報告を行いました。

送付数百八十九名

◆ 山口県支部總會 中止

◆ 関西支部總會 中止

◆ 益田支部總會 七月三十日(土)

ちるちるみちる駅前店において安田徳太(昭和四十一年建築卒) 支部長をはじめ、七名の出席によって四年ぶりに開催されました。今後の活動について熱心な意見交換を行いました。

◆ 浜田支部總會 十月二十九日(土)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、七月の予定を十月に延期し、鈴蘭別館において岡本正友(昭和四十六年建築卒) 支部長をはじめ、三十一名の出席によって開催されました。総会では、令和二年度・三年度の活動や決算報告、四年度の活動計画や予算についての審議と役員改選が行われ、令和四年度・五年度の役員は令和三年度の役員が続投することに決定しました。

懇親会では、今年度より参加の若手会員の紹介、会員の皆様が持ち寄った品々を賞品としたビンゴ大会が実施され、大いに盛り上がりました。最後に、佐々木敏博(昭和四十二年機械卒) 会員によるトランペット演奏にて、応援歌、校歌を歌い、久しぶりの懇親会を楽しみました。

本部より小嶺和隆校長、高月進事務局員の二名が出席しました。

◆ 開校九十周年記念名簿

九十周年記念名簿の発行に向け、令和四年九月二十二日(木)に榊サトと発行に関する契約を締結しました。発行は令和六年十月頃を目指しており、本年十月頃から調査葉書が発送される予定です。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

計 報

謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員

上手 武 光(江津市)
(昭和三十五年 工化卒)
工化
昭和三十七～五十三年度

電気
昭和五十四
(平成十九年度)
加賀羅 聡(浜田市)
芸術
昭和六十二～平成八年度

会 員

渡 辺 初
(昭和十二年 木建)
河 本 充 博(浜田市)
(昭和三十年 木業)
西 田 貞 男(江津市)
(昭和三十一年 木業)
中 村 宜 之(江津市)
(昭和三十五年 工化)
佐 々 木 義 則(浜田市)
(昭和三十六年 機械)
堂 森 勝 彦(江津市)
(昭和三十六年 工化)
荒 木 賢 一(関東支部)
(昭和三十九年 電気)
永 井 憲 雄(江津市)
(昭和四十年 機械)
三 浦 利 幸(浜田市)
(昭和四十一年 機械)
藤 井 進(江津市)
(昭和四十二年 工化)
福 田 正 明(浜田市)
(昭和四十二年 工化)
今 田 正 直(江津市)
(昭和四十二年 電気)
塩 田 一 愛(江津市)
(昭和四十三年 工化)
中 島 信 一(大田市)
(昭和四十三年 工化)

平 下 博(江津市)
(昭和四十四年 工化)
三 沢 淳(愛知県)
(昭和四十六年 工化)
三 原 清(江津市)
(昭和四十八年 工化)
牛 尾 修(江津市)
(昭和四十九年 電気)
矢 萩 重 義(江津市)
(旧姓 牛尾)
(昭和四十九年 電気)
佐 々 木 成 治(江津市)
(昭和五十三年 電気)
飯 田 浩 明(江津市)
(昭和五十七年 機械)
平 田 浩 一(大田市)
(昭和六十二年 建築)

※事務局で把握できた方のみ掲載しております。

編 集 後 記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十七号を発行することができました。

なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。

(事務局 三浦)

令和 3 年度 江工会一般会計 決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	1,317,440	0	1,317,440	1,317,440	0	令和 2 年度繰越金
2 会費・入会金	518,400	0	518,400	525,601	△ 7,201	R 3 年度卒業生 48 名分 利息含む
3 寄付金	10,000	0	10,000	20,000	△ 10,000	関東支部より
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	60	0	60	4,212	△ 4,152	名簿販売 預金利息
収入合計	1,845,900	0	1,845,900	1,867,253	△ 21,353	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	150,000	0	150,000	132,000	18,000	会報 56 号 2,000 部発行
3 記念品費	40,000	0	40,000	24,000	16,000	卒業生への角筒
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	50,000	0	50,000	23,850	26,150	理事会・総会資料送付
6 旅費	300,000	0	300,000	0	300,000	
7 会議費	200,000	0	200,000	361	199,639	会議用お茶
8 慶弔費	30,000	0	30,000	897	29,103	浜田市議当選お祝い送料
9 雑費	30,000	0	30,000	6,710	23,290	広告料
10 積立金	300,000	0	300,000	300,000	0	定額貯金
11 予備費	585,900	0	585,900	0	585,900	
支出合計	1,845,900	0	1,845,900	647,818	1,198,082	

令和 4 年度 江工会一般会計 予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	1,219,435		1,219,435	1,317,440	△ 98,005	令和 3 年度繰越金
2 会費・入会金	550,800		550,800	518,400	32,400	R 4 年度卒業予定者 51 名分 利息含む
3 寄付金	10,000		10,000	10,000	0	支部より
4 繰入金	0		0	0	0	
5 雑収入	65		65	60	5	預金利息
収入合計	1,780,300		1,780,300	1,845,900	△ 65,600	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000		10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	150,000		150,000	150,000	0	会報 57 号 2,000 部予定
3 記念品費	40,000		40,000	40,000	0	卒業予定者への記念品
4 会館運営費助成	150,000		150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	50,000		50,000	50,000	0	理事会・総会資料送付
6 旅費	300,000		300,000	300,000	0	支部総会出席旅費
7 会議費	200,000		200,000	200,000	0	各支部費の支援費
8 慶弔費	30,000		30,000	30,000	0	
9 雑費	30,000		30,000	30,000	0	広告料
10 積立金	500,000		500,000	300,000	200,000	定額貯金
11 予備費	320,300		320,300	585,900	△ 265,600	
支出合計	1,780,300		1,780,300	1,845,900	△ 65,600	